

派遣留学生帰国報告書

* 復学後の情報を入力してください

記入日	01/08/2017		
所属学部	工学研究科		
所属学科・専攻	デザイン科学専攻		

1. 留学先について

留学先大学名	Aalto University Art, Design and Architecture			
留学先所属学部等	Product and Spatial Design			
留学期間	出発日 8月14日	入学日 8月22日	修了日 5月31日	帰国日 7月21日
住居	<input type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート <input checked="" type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他()			
	通学時間	20分		<input type="checkbox"/>
	通学方法	バス		
	居室スペース	<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> (6) 人部屋 <input type="checkbox"/> その他()		
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室 <input checked="" type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> リビング <input type="checkbox"/> その他()		
食事	自炊 30 %	学食 70 %	外食 0 %	その他 % () * %で記入してください
保険	海外旅行保険(名称)	AIU海外旅行保険		
	大学指定の保険(名称)			<input type="checkbox"/> 強制加入
	その他			
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウイスコンシン(電車)			
	成田 ⇄ コペンハーゲン(飛行機) ⇄ ヘルシンキ(飛行機)			

2. 留学にかかった費用について

総費用	2,340,000	円	* おおよそでかまいません。				
出処							
自費	<input checked="" type="checkbox"/> 貯金	200,000	円	<input type="checkbox"/> アルバイト	円	<input type="checkbox"/> その他	円
援助	<input checked="" type="checkbox"/> 両親	180,000	円	<input type="checkbox"/> 家族・親戚	円	<input type="checkbox"/> その他	円
奨学金	<input type="checkbox"/> JASSO		円	<input checked="" type="checkbox"/> その他名称(トビタテ留学JAPAN)	1,960,000		円
その他	<input type="checkbox"/> 千葉大学助成金		円	<input type="checkbox"/> その他()			円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input checked="" type="checkbox"/> 現金	30,000	円	<input type="checkbox"/> その他()	円
留学中	<input type="checkbox"/> 海外送金	<input checked="" type="checkbox"/> キャッシング	<input type="checkbox"/> その他()		

2-2. 各費用の支払い方法 ex.)全額、クレジットカードで。

大学に払った費用	全額クレジットカード
住居にかかった費用	全額キャッシング
その他	

2-3. 内訳

* 外貨で払ったものについては日本円に換算したおおよその金額も記入してください

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			330,000	円
海外旅行保険			200,000	円
OSSMA			20,000	円
査証・在留許可証			36,000	円
住居			587,000	円
食費			330,000	円
通学に要する交通費			37,000	円
教科書、教材費			0	円
その他大学に支払った経費			0	円
光熱費			0(家賃に含む)	円
その他 (生活費用)			300,000	円
その他 (旅行)			500,000	円

3. 学業面

履修科目名 * 全て。足りない場合には別紙に記入してください。	種類ex.正規、聴講	単位数	単位互換認定申請の有無
1 Intro	正規	2	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
2 Rethinking Design	正規	10	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
3 Product and Space Interection	正規	10	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
4 Survival Finnish	正規	1	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
5 Woodstudio	正規	10	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
6 Experimental Design	正規	10	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
7 Form and Function	正規	10	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
8 Life Drawing	正規	6	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
9 Design and Culture	正規	4	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

* 登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

大学の授業に関する情報、授業登録、履修済み授業の状況などは、Weboodiというアアルト大学のWebサイトを使用し確認、登録することができる。ただし学科ごとに優先的に開講されている授業の一覧は、Introというアアルト大学のホームページから学科のページをたどっていくと閲覧することができる。

3-2. 授業内容、方法に関して

上記に記した10単位の授業が学科のメインのコースとなり、学生は1ピリオドにつき1つの授業を選択する。授業は全てスタジオ開講となり、坐学ではなく工房での製作が主な授業スタイルとなる。

3-3. 語学力について

アアルト大学の大学院は英語で開講される。正規留学生もフィンランド人以外が半分以上という印象、ヘルシンキでは英語がどこでも通じるので、暮らす中で不都合を感じることはなかった。交換留学生は特に達しないといけない基準はなかったが、英語圏外からくる正規留学生はToefl92あるいはIELTS6.5以上を要求されるため、私は留学前にIELTSを受験しそのスコアを取得した。フィンランドに関しはアアルト大学の留学生用のフィンランド語の授業を受講し、田舎の方にいった際少し話す機会があった。

3-4. 図書館など学内施設について

アアルト大学は3つのキャンパスがある。メインのキャンパスはオタニエミというヘルシンキ中央駅から西へ30-40分ほど。オリエンテーション及び第4ピリオドの授業で必要だった施設を使用する以外メインのキャンパスはほとんど使うことはなかった。デザインの学科はアラビアキャンパスという、ヘルシンキ中央駅から北へ20分ほどのところにあり、ほとんどそのキャンパスを利用していた。木工・金属・陶器・ガラスの工房がそれぞれあり、それぞれに工房のマスターがいて製作環境としてはとても充実している。アラビアキャンパスにはカフェテリアは3つあり、学生は2.6ユーロで利用できる。そのうち一つはベジタリアン、ビーガン用で食事も美味しく独特なカフェテリアであった。

来年度(2018年夏)にこの3つのキャンパスが1つに統合されるとのことで、留学中、アラビアキャンパスから図書館と3Dプリンタなどの一部の機器がオタニエミキャンパスへ移ってしまったことが少々不便であった。

4. 生活面 *気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。

4-1. 住居について

アアルト大学には学生寮はないがいくつか推奨する学生アパート用の不動産を紹介してもらえるのでそれぞれで申し込みをした。私は幸運にもそこで留学生用のアパートに入れてもらえたが、ヘルシンキは学生の住居待ちが長いと言われており家がなかなか見つからない交換留学生の友人も何人かいた。留学が決まったら(あるいは決まる前でも)極力早く住居の申し込みを行うことが大事。ちなみに、入居待ちを言われた友人は、ヘルシンキの学生Facebookグループに入りそこで退居する人を見つけたり、またシェアルームを探している人を見つけたりと、知り合いついでを見つけ出している人が多かった印象。

フィンランドはリノベーションが発達しており、どこのアパートも屋内は大変綺麗で清潔な印象。私の入っていた学生アパートは光熱費・インターネット・洗濯・サウナ込み、家具も備え付けであった。アパートによっては家具が備え付けでないところもあるが(その分値段が大分安くなる)その他の設備は大方同じ。

交換留学生は大抵ルームメイトをもつことが多い。3人または6人部屋、私は6人スタジオで皆違う国からきていたので、大学から帰っても英語を話す機会が多く、パーティーをしたり、休日に出かける友人に困らなかった点で大変楽しく過ごせたと感じる。個室はあり、キッチン・シャワー・トイレが共用。6人もいと掃除や共有物など生活の基本的なところで文化の違いを感じる節もあった。

4-2. 食生活について

フィンランドは学食が2.6ユーロでビュッフェ形式で食べられるので、基本的には昼11:30、夜ご飯17:30はそこで友人と一緒に済ませていた。自炊は朝と休日のみ。ヘルシンキにはどこにでもスーパーがあり、私が住んでいたところも徒歩5分圏内に2つ大きなスーパーがあったので困ることはなかった。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

インターネットはフィンランドでSIMカードを契約し使用していた(DNAという会社)。毎月18ユーロで無制限。アパートでもインターネットが家賃に含まれていたのが新たに契約することはなかった。契約はフィンランド人の友人が携帯会社に一緒にいってくれ、また保証人になってくれた。支払いは口座振込だったが、私は銀行を開設していなかったのが銀行でキャッシュ払い。友人のなかにはプリペイド式(ネットで振り込むことができる)のSIMカードを利用しているひともいた。アパートでもインターネットが家賃に含まれていたのが新たに契約することはなかった。

4-4. 服装について

8月:到着した8月後半はすでに秋。寒いと12度ほどになるので秋用のジャケットを持って行って正解。
 10-11月:日本の冬。0度くらいまで下がる。日本で着ていたコートはここまで、ヘルシンキで”現地の冬を乗り越えられる”と言われたコートと、ファーの内側に付いた滑りにくい冬用ブーツ(両方とも普段用)を購入し、4月中旬まで着用していた。
 しかし、現地の防寒コートを一着買ってしまえば、基本的に寒さを感じることはない。というのも、大学も家もとても暖かいので普通のセーターやシャツで十分だったからだ。

4-5. 健康管理について

むこうで大きく体調を崩すことはなかった。しかし夏の日本から現地にいくと、気温よりも乾燥のためになどが風邪っぽい調子が続いた。1ヶ月もすると慣れたが、はじめの方はマスクが役にたった。普段私はアレルギー鼻炎ののどから風邪をひくことが多いの日本で使用していたうがい薬や葛根湯などを時々使用して予防していた。他の薬は使用しなかったが、常備薬は一通りもっていったことは安心につながったと思う。

4-6. 保険、OSSMAの利用 *利用実績等をご記入ください

利用していない。

4-7. 課外活動について

- ・大学で行われるクリスマスマーケット、スプリングマーケットに参加。1ヶ月前から準備にとりかかり出店まで行った。これは、他学年、他学科に友人を増やす機会となり、また工房のマスターと仲良くなる機会になる。
- ・ヘルシンキのカフェで時々行われていたドロイングイベント(参加費無料)に毎回行っていた。
- ・帰国前1ヶ月、ヘルシンキのレストランとアトリエで、フィンランドでつくりためた俳句(英語俳句)と写真の展示会を行った。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

- ・大学の友人10人ほどとよくバーに行ったが、そこで友人の友人という形で、毎回色々な人との交流を持つことができたのがとても新鮮だった。友人の開くパーティーにいくと一気に輪が広がる。特に留学先の国の人々のパーティーにいくとその国の知り合いを増やすきっかけになるので、大学が留学生ばかりな場合とはとても良い機会となった。
- ・ドロイングイベントで知り合った友人は大学の友人以外で最も親しい友人になった。
- ・ヘルシンキには”カフェリングア(語学カフェの意)”というものが毎週定時にひらかれ、色々な国の人が集まり自分の学びたい言語の人同士でその言葉で話せる機会があった。ここでも友人は増える。
- ・奨学金”トビタテ留学JAPAN”のつながりもあった。大学の学科同学年には日本人がいなかったため、同じようにヘルシンキに留学しているトビタテをとっている日本人と時々会ったり、また他の国からヘルシンキを訪れる人に会うこともあった。

4-9. 日本から持参してよかったもの

・プリペード式クレジットカード:メインのクレジットカードの他に。パーティーに行く時など、プリペード式だと安心(カード払いが主流な国に限るが)。使用したカード会社はキャッシュパスポート。
 ・スイムスーツ。フィンランドでは予想外に着る機会が多い。サウナは1年を通して、また冬も夏も泳ぐ(?)機会が。
 ・昆布だし。基本日本食材は現地で購入可能だが、ベジタリアンの友人が非常に多かったので昆布だしがあると気兼ねなく使用できる。カツオだししか売っていなかったのを記入。
 ・消臭スプレー。到着直後の2週間は Hostel暮らしが続いた。洗濯できない時に使用したり、日によって男女混合の大部屋になる時に使用したことがあった。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

・お弁当箱 日本では毎日作っていたのもっていったが学食が安かったので一度も使わなかった。
 ・常備薬 (結果論)
 ・日本の食材(少し高いが基本現地調達で良い)
 ・つなぎ(上下のつながっている作業着)
 ・和紙など日本っぽい画材(現地調達で良い)

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

基本的にもの静かな性格、ハイコンテキスト(空気を読む?)文化と言われているが、確かに思ったことをそのままより少し婉曲して話す人が多かったように感じる。また相手が話終わるまでは待ち、穏やかで忍耐強いと感じる。他のヨーロッパに比べシャイだと言われているが、こちらから話しかけるととても気さくで親切。接客などは大変カジュアルで、一部カジュアルすぎてマナーが・・・、という友人もいたが、私はそのさばさばした感じに好印象を持っていた。お店で挨拶されたら大抵の場合”モーイ”と挨拶を返すのが通常なので返事を忘れないようにしたい。お酒を飲むと普段のもの静けさは何処へやら、とても賑やかになって誰彼構わず場所も構わずオープンになる場面に遭遇することもあった。英語が通じ、酔っ払いこそいるものの治安も良く全体的に民度が高いよう。おしゃれにあまりこだわらずファッションも淡泊な印象。冬には日が短く暗いためか、そして夏は日光をありがたく感じるためだろうか、毎日16時には先生や工房のマスターはさっさと帰ってしまったり、金曜日には明らかに工房の閉まる時間が1,2時間早かったり、突如として休暇に入るととぼったり連絡が取れなくなるので要注意。しかし概して日本人と近いといわれることもあるフィンランド人なので人とのコミュニケーションでそれほど驚くことは少ないと思う。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行 *複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

ex) 【イギリス・ロンドン&フランス・パリ(観光)】〇〇年〇月(5日間)、約5万円

イギリス・ロンドン(デザインウィーク) 2016/9 2日間 6万円
 エストニア・タリン(観光) 2016/10 1日間 5千円
 フィンランド・ラップランド(観光) 2016/12 5日間 4万円
 ロシア・サンクトペテルブルク(観光) 2016/12 3日間 5万円
 スウェーデン・ストックホルム(デザインウィーク) 2017/2 6日間 5万円
 ラトビア・リガ&リトアニア・ビリニュス(観光) 2017/3 4日間 3万円
 イタリア・ミラノ(デザインウィーク) 2017/4 6日間 6万円
 デンマーク・コペンハーゲン(観光) 2017/6 6日間 6万円
 ノルウェー・ロフォーテン諸島(観光) 2017/6 5日間 6万円
 フィンランド各都市(観光) 日帰り~2日 毎回約5千円

* 気分転換やストレス発散法など。

大学の最上階にたまたまグランドピアノがあり誰もいない時に触りにっていたのが大きな気分転換になった。
同じ奨学金をとった友人と会ったり、千葉大のゆうじんが訪れてくれた時にはほっと一息つける気分だった。
またフィンランドの友人とサウナ巡りに出ることも気分転換だった。

5. 報告

5-2. 留学先大学について(150~200文字)

アアルト大学はサイエンス、ビジネス、アートの3つの学部構成されている。メインキャンパスはオタニエミというヘルシンキ中央駅からバスで30-40分ほどのところにある。キャンパスはその図書館やメインホールを含めフィンランドを代表する建築家アルヴァ・アアルトの作品として有名。デザイン学部はアラビアキャンパスという中央から北にバスで20分ほどのところに立地。一つの建物にコンパクトに工房や設備が入っているので非常に便利で使い易い。両キャンパスとも海や公園、森など自然に囲まれたとても穏やかな場所。

5-3. 留学中の様子(450~500文字)

アアルト大学の院は正規学生と留学生が同時に入学する。海外学生が少なくとも50%以上在学するため非常に国際色豊かで授業も英語で開講されるので、他の学生と変わりなく混じって過ごすことができたと感じる。授業は12人~多くて20人と、先生と学生間の交流が多く非常にアットホームな気分で、工房の設備がとても恵まれた環境だったので集中的に制作に励むことができた。友人はほとんど働いた経験があり年上で刺激をうけたが、皆人でありながらとても活発で、キャンパス裏の湖岸でよく息抜きに遊んだり毎週末にはバーへ集まり、季節のイベントにも積極的に参加して、多くの時間を共に過ごした。またルームメイトの5人も異なる国から集まっていて、パーティーを開いたりフィンランド国内あらゆる都市へ出かけた。授業の合間を縫って海外のデザインウィークや旅行に気軽に赴くことができたのもとても刺激的だった。

5-4. 留学希望者へのアドバイス(300~400文字)

行ったばかりの頃はなんとなく寂しさを感じたり困難もあるが、留学生ということを忘れてしまうくらい現地に馴染み、色々なことに挑戦してみることが留学を留学らしくさせる要素の一つになったと感じる。留学先では、ありえないと思う文化や風習、食べ物があるかもしれないが、その経験を自分から積極的に体験しにいけるくらいの気持ちで楽しめると良い。ちなみに留学では、留学生という事実があらゆるチャンスをもたせてくれることもある。留学では自分は何にアンテナをはるのかを明確にすることで、色々な場所に訪れた際に、観光とは別の視点でものをみることができる。自づと刺激を受けるものは入ってくるが、人と話さなければ知ることのできないこと、学べないこともあったと感じるので人と積極的に話すこともとても重要。ぜひ現地の友人に混じり、現地人になりきってほしいと思う。

5-5. 留学を終えて * 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がついた部分、不安に思うことなどなんでも。

留学を終えて大切だと思ったこと・フィンランドで感じたことを3つの点からまとめる。

1自主性。留学先の大学ではみな社会人経験があることもあって、「教わる場」というよりも「学ぶ場」であるという印象がとても強かった。習うより慣れろのスタンスであり、基礎もなく自分の作りたいものを持って行き、工房のマスターと相談しながら制作を進める。しかしその過程で作りながら考えること、要領の悪さや失敗も含め作ってから学ぶことは多く、友人もまずは作ってみようという行動力がある。一方授業では先生は基本的に褒めるコメントがほとんどで批評が少ないため自分で考える力も必要とされた。

2柔軟性。頭で考えることが主だった留学前までに対して、留学先のデザインはいつでも実践的であった。機械や環境、自分の手を駆使して実際の素材で作る機会が、授業でもそれ以外の活動でも多々あり、そのたびに思い通りにならないことや、どうしたら素材をいかしその環境で良いものをつくれるのか、時にハッピーアクシデントに計画を変え、工夫していく潔さとポジティブさを学んだ。

3平穏さ。これは1年を過ごして自分が感じたフィンランド人から影響を受け、今後それを忘れずにいたいと感じていることである。フィンランドには多くても15分歩けば静寂をとじこめたような美しい湖、白樺の爽やかな林にいつでも行くことができる。美しい夕焼けを前にするととても静かな気持ちになり、実際フィンランドの知り合いが、幸せに必要なことに自然でゆっくり自分を見つめることといていたことも納得できる。同時に、フィンランドは政府の補助など福祉面で充実し、人々は生活にゆとりをもって暮らしていることを感じていた。暗く長い冬でも16時にさっさと帰ってしまうと思えば家でろうそくとお菓子と心地よい家具でゆっくりすごしたり、夏は夏で太陽を惜しみなく浴びようと(するためか)休暇は長くすっかり仕事から離れて惜しみなく自然を楽しんでいた。生涯学習というのか学ぶことがとても自由で、どこかにいつも心のゆとりを感じる。厳しく美しい自然と共に、フィンランドの人のその穏やかさに憧れてやまない。

お疲れ様でした

2340000